

目的 家庭においてくつろぎ着として、和服を着用する男性は案外多い。省エネルギー時代と云われている現在、最も涼しく着用できる衣服形態を探求する目的で、洋服も一部含め、ゆかた、甚平について涼感に関する着用実験を行った。

方法 試料は、ゆかた、甚平、木口シャツとスラックス（いずれも綿100%）の三種類。被験者は、体格の近似した健康な成人女子8名。測定室の温度は、 $26 \pm 2^{\circ}\text{C}$ 。湿度 $65 \pm 5\%$ 。測定器具は、多点式サーミスターを使用、皮膚温（前額、胸、前膊、下腿）、衣服表面温（上と同じ）を測定した。平均皮膚温、平均衣服表面温の算出は、体表面積比重の重みづけを行なって求めた。保温効果は、温度勾配法によって求めた。

結果 衣服の形態（A）、測定部位（B）を要因として、分散分析を行った結果、A、B、 $A \times B$ において高度に有意差が認められた。即ち木口シャツ、甚平、ゆかたと形態が違えば、若しく皮膚温も異なりといえる。最も暑いのは、ゆかたで木口シャツ、甚平の順である。測定部位では、大体、下腿部が低く、胸部は高い値を示した。保温効果では、分散分析の結果、衣服の形態間に高度に有意差が認められた。最も暑いのは、甚平で、保温効果0.2であり、信頼率95%における母平均の信頼限界は $0.2 \pm 0.06$ である。ゆかた $0.9 \pm 0.06$ 、木口シャツ $0.5 \pm 0.06$ であった。したがって甚平は、夏の男性の家庭着として最も涼しい衣服であるといえる。身体露出面積も多く、開口部も広い、髣髴箇所をつくらないで、緩やかに着用できる甚平は、新しい時代のデザインでもあり、夏期衣服としては最適であると思う。